

★かがやき読み聞かせ★

落五小の秋の読書週間の取り組みで、欠かせない活動となっているのが、かがやき読み聞かせ交流会です。ただ単に読み聞かせをするだけでなく、当日に至るまでの5、6年生の準備はとても念入りにされています。5、6年生一人一人の児童が、同じかがやき班の下学年の子に読んであげたい本を選び、読む練習を重ねます。ただ、読めばよいわけではなくお話の好きな場面や言葉を見付け、下学年の子たちに伝わるように、読み方や本の持ち方で工夫を凝らして、何度も何度も練習を重ねているのです。当日は、体育館や軽体操場の中の思い思いの場所で本を囲み、下学年の子たちは、あつという間にお話の世界へと引き込まれていきます。いつもは大きな声でかがやき班をリードしてくれる上級生が、この日はいつも以上に優しく、しつとりと、そして心を込めて読んでくれる時間は、格別のものであることに間違いありません。教職員さえ踏み込むことをためらうくらいに、子供たちだけで作り上げる心地よい空間。早く読み終えたグループは他のグループを邪魔しないように、好きなページや感想を伝え合っており、ここでも優しい笑顔が見られます。今年で7回目となりましたが、読んでもらっていた学年が、読んであげる学年となり、成長を実感できるこの活動を、これからも大切に継承していきたいです。



★ふれあい月間★

新宿区では、子供同士の友人関係や日頃からの教員の指導の在り方を見直す機会として、6月、11月、2月を「ふれあい月間」と位置付けています。人権教育や心の教育等を推進するとともに、いじめ、不登校、暴力行為等の問題行動及び教員の指導の状況について、現状や取り組みの効果等を把握するためのアンケート調査を行っています。

また、落五小ではこの期間に、あいさつ運動にも取り組んでいます。11月は学年ごとに工夫したあいさつ運動が行われました。取組みが終わっても、気持ちのよい挨拶ができる子供たちに育ってほしいと強く願っています。



写真は2年生の取組み

開校65周年 落五こぼれ話 シリーズ ⑥

令和元年12月現在の児童数は166名、学級数は6クラスです。しかし、開校頃の昭和30年代は、700名以上もいて、昭和33年には802名、17学級もあるような大きな学校でした。教室の数が足りずに、低学年は二部授業をしていたそうです。その後、校舎の増築や改築が進められましたが、多かった児童数も少しずつ減り始め、平成の時代になると、各学年1クラスの小規模校へと変わっていきました。

さて、来年度の落五小は、どうなるのでしょうか。楽しみです。



写真は昭和45年頃

落五スクールライフ11月



●生活科見学・
どんぐり祭り(1年)●

光が丘公園で拾ってきたどんぐりを材料にして作ったものをお店屋さん風に並べ、どんぐり祭りを行いました。昼休みに全校児童に呼びかけたところ、たくさんのお客さんが来てくれました。

●下落合図書館見学(2年)●

生活科の学習で下落合図書館に見学に行きました。みんなが気持ちよく利用するためのルールやマナー、工夫をたくさん見付けました。



●百人染め(3年)●

総合的な学習の時間に、百人染めを行いました。一人一人が作った型の模様で、反物がいっぱいになりました。完成した染め物は、2月に行われる「染めの小道」の際、妙正寺川にかけられます。

●国際理解教室(4年)●

セントルシアの小学生がよく遊ぶというゴム跳びのような遊びを体験しました。子供たちは大盛り上がり！休み時間にまたやってみたいです。



●社会科見学(5年)●

11月27日にロッテ浦和工場、造幣局さいたま支局を見学しました。工場の努力や工夫、お金ができる工程などを真剣に聞き取りました。

●理科ボランティア授業(6年)●

「土地のつくり」の学習で、火山の様子や火山灰や土に含まれている物を顕微鏡で観察しました。上田先生の専門知識に子供たちも大喜びでした。

